

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○大分県学力定着状況調査では、5年の国語と理科で県平均(正答率偏差値)を上回ったが、算数の図形や四則計算で課題が残る。8年は全教科において県平均(正答率偏差値)を上回った。 ○全国学力・学習状況調査では、6年、9年ともに全教科において全国平均(正答率偏差値)を上回った。</p> <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 効力感アンケート(昨年度と今年度1学期の比較) 中期5~6年 後期8~9年 ・グループ学習やグループ活動は考える時に役に立つ 中期 82.4%→78.7% 後期 80.8%→86.3% ・自分の考えを伝える機会がある 中期 74.7%→70.8% 後期 73.7%→76.9%</p>	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○「ほぼ毎日家庭学習をしている」の肯定率は、5年生で67.9%、8年生では80.0%である。 ○各学年の目標とする学習時間の率については、5年生で1時間以上が70.6%、6年生で83.2%と良好である。8年生では2時間以上が40.0%、9年生では3時間以上が17.1%であるが、全国や県に比べると、やや高い傾向ではある。 ○「自分で計画を立てて学習する」の肯定率は、4学年とも50%前後であったが、与えられた課題には取り組んでいる。 以上のことから、「学習時間の確保」と「主体的な学習」が課題である。 ○「授業で話し合う活動をよく行っていたか」の肯定率は、5年生は83.9%、6年生は75.7%、8年生は93.6%、9年生は85.7%と高いことから、主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業実践の成果が見られる。</p>
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況 ○支持的風土の醸成(教室環境、学習規律の徹底、関係づくり)・「新大分スタンダード」に基づく1時間完結型の授業づくり(対話の重視)により自己肯定感を高める指導を継続している。</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○補充学習の実施(5年生以上の朝学習、1~4年生のスキルタイム実施、夏季休業中の4~9年生の補充指導) ○家庭学習指導(家庭学習時間の目安設定、学習の手引きの活用) ○読書指導(読み聞かせ、読書タイムの実施)</p>	

学力に関する達成指標	○各種学力調査における結果において、各教科で全国平均を上回る項目を95%以上
------------	--

